

1 研究テーマ

「こどもたちのニーズにあったカリキュラムの創造」

～ 豊洲小の子どもたちの実態から、ひとりひとりの良さに気づき、
追究することの楽しさを実感できるカリキュラムの在り方 ～

2 研究課題

豊洲小学校の教育目標

豊洲の文化に囲まれた水といのちの豊かな学校
豊かな心を持ち、本気で取り組む子

児童の実態

自分が持っている社会認識だけで、物事を考えてしまい、自分の考えに自信が持
てず
最後まで自分の問題として粘り強く追究できないでいる姿

昨年度は

・自分の生活と結びつきの強い身近な学習素材を用いる。
・自分が調査したことを互いに出し合う場や驚きや知的好奇心を揺さぶる場面の設
定。

を行うことで、

少しずつ主体的に学ぼうとする姿になってきた。

本年度は

体験的な学習を行うことにより、「事実認識」に対する高まりはできる。それを、その高ま
りをその後の学びに生かしていきたい。そのためには、事実認識から問題意識へ・問題意識
から追究へ・追究から価値認識へといった学びの道すじを大切にされたカリキュラムの構築が
必要となる。

昨年度の研究で成果をあげた地域素材の教材化を基盤とし、子どもたちのニーズを生み出
し、それに応えていくカリキュラムの構築を目指す。

3 指導の実際

研究授業

- ・ 実施期日 平成16年11月2日(火)
- ・ 学校名 豊洲小学校 4年竹組
- ・ 単元名 「郷土に伝わる願い」
- ・ 授業者名 中島 洋 教諭
- ・ 指導者名 青木 広安 先生

こどもたちのニーズとは・・・ 《 ニーズの捉え 》

体験的調査的な活動による事実認識から生まれてくる問題意識

【 事実認識から問題意識へ 】

調べる対象や調べ方の選択。または追究方法に対する願い

【 問題意識から追究へ 】

追究の中で新たに生まれてくる問題意識

【 学習の広がり・深まり 】

社会的事象の意味や価値についての見方・考え方の深まりから生まれる満足感・達成感
【 追究から価値認識へ 】

これらの様々なニーズに応じた支援の在り方の工夫（カリキュラムの創造）が必要になっていく。

前ページの について

- ア、児童の生活経験の実態を適切に捉えておくこと。
- イ、教材化研究の重要性
- ウ、子どもたちの意識に寄り添い、学習を展開していくこと。

前ページの について

- ア、何についてどのように追究するのかを明確になるような個に応じた支援をすること
- イ、学習問題に対する自分なりの予想を持たせ、互いの予想を出し合い、吟味しながら検証する方法を考えること。
- ウ、個の追究結果を全体の中で話し合う場を位置づけること。（他の児童の学び方に学ぶ

前ページの について

- ア、自己評価を積み重ねていくこと。
- イ、相互評価をしあう場を設けていくこと。
- ウ、教師による評価 支援へ

4 この事例から明らかになったこと

(1) 具体物を用いるなど、児童の実態を捉えた上での授業であり、その配慮が児童の学習活動を活発にする。

- ・写真や具体物の導入により、切り返したり、問い直したりすることで、子どもたちの考えを広めたり、深めたりすることができる。

(2) 地域素材を用いることの意義の大きさ。

- ・子どもたちが生活する地域とのつながりや人々との結びつきを持つなどの意義がある。
- ・具体的に見たり、聞いたり、さわったりできる。
- ・何回も確認や取材にをしに行くことができる。
- ・人々の思いや願いに触れることができる。
- ・発展性がある。

5 来年度への課題

(1) 評価について。

- ・自己評価、相互評価、教師による評価についての研究が十分できなかった。

(2) 地域素材を扱ったカリキュラムの蓄積

- ・何を気づかせるのか、何をわからせるのかの視点をはっきりさせる。

(3) その授業における基礎・基本の明確化。

(4) 社会科の評価の4つの観点でのつきたい力を、小中一貫して研究する必要がある。